

Z会東大進学教室

# 直前一橋大世界史総合演習

## 【1回目】



## 問題

【1】

### 解答

フィリップ2世は、当時大陸に広大な領土を有していたイギリスのジョン王を破って領土を拡大した。13世紀初頭にはルイ9世の治世下でアルビジョワ十字軍が行われ、南フランスにも支配を広げた。フィリップ4世は財政基盤を固めるためにテンプル騎士団を解散させ、教会への課税をめぐる教皇との対立に際しては三部会を召集して国内の支持を得、ボニファティウス8世を屈服させた。以後のフランスでは、カトリックでありながら教会を王権の支配下に置くガリカニズムが採られた。カペー朝が断絶し、フィリップ6世が即位してヴァロワ朝が開かれると、これに反発したイギリスとの間に百年戦争が勃発した。ジャンヌ＝ダルクの活躍もあってシャルル7世の指揮下でフランスが勝利し、イギリス勢力を大陸からほぼ一掃した。長期の戦争で諸侯が没落する一方で王権は伸長し、ジャック＝クールによって財政改革が進められ、官僚と常備軍が置かれて中央集権化が進められた。(400字)

### 解説

中世ヨーロッパはできるだけ細かい用語まで覚えておくことが望ましい。やはり、試験で最大の心理的圧迫の要因となるのは、既定の字数に届かないことによる焦りだからだ。フランス史という頻出テーマでどれくらい用語を知っているかを試したのがこの問題である。この解答で挙げた事項を、過不足なく思い出してほしい。

指定語句で使い方に迷うのは「テンプル騎士団」であろう。まず、「フィリップ4世が解散させた」という事実を知らなければ、お手上げとなる。もし、知っていたのならフィリップ4世が教会に課税したことをさらに思い出し、国内の宗教勢力を抑え込もうとする意図があったことを文章化することができれば文句なしなのだが、実際にここまで書くことは難しい。そういうときにどのように対処するかも腕の見せどころではあるが、そうならないためにもできるだけいろんなことを覚えておきたい。

「ガリカニズム」という用語は一橋大受験者ならば知っていた人が多いと思われる。一般的に、プロテスタントを選択してローマ＝カトリックから離脱することで、王権は国内の教会を支配下に置いていった。それに対して、カトリックでありながら国内の教会を支配下に置いていく形態がガリカニズムであり、フランスに特徴的な立場である。

論述の終点は「15世紀」ということで、シャルル8世の時代まで書くこともできないわけではないが、ハプスブルク家とのイタリア戦争くらいしか書くべき内容がなく、今回は触れなくてもよいだろう。但し、イタリア戦争のきっかけとなったブルゴーニュ領の併合を書くのならば、フランス王権の拡張につながるので書いてもよい。

**【配点の目安】** (配点 50点)

- ① フィリップ2世は、イギリス (のジョン王) を破って領土を拡大した (6点)
- ② ルイ9世の治世下でアルビジョワ十字軍が行われ、南フランスに支配を広げた (10点)
- ③ フィリップ4世は、テンプル騎士団を解散させた (5点)
- ④ (フィリップ4世は) 三部会を召集し、教皇を屈服させた (7点)
- ⑤ ヴァロワ朝が開かれると、イギリスとの間に百年戦争が勃発した (4点)
- ⑥ シャルル7世の指揮下でフランスが (百年戦争に) 勝利した (6点)
- ⑦ 長期の戦争で諸侯が没落し、王権は伸長した (6点)
- ⑧ 解答を充実させるために、次のうち2つ以上の要素を押さえる。(3点×2 = 6点)
  - ・ フィリップ4世は教会に課税した
  - ・ フィリップ4世は国内の宗教勢力を抑え込もうとした
  - ・ フランスでは、カトリックでありながら教会を王権の支配下に置くガリカニズムが採られた
  - ・ ジャック＝クールによって財政改革が進められた
  - ・ 官僚と常備軍が置かれて中央集権化が進められた
  - ・ シャルル8世の時代にブルゴーニュ領を併合した

**【2】**

**解答**

南北戦争後のアメリカ合衆国では北部を中心に商工業が発展し、19世紀末には工業生産力でイギリスを上回った。大陸横断鉄道の開通によって西部と東部の市場が連結され、経済成長を支えた。この工業化の進展を支えたのは移民の労働力であったが、中国系移民や南欧・東欧からの新移民は、言語・宗教など生活習慣の違いから差別を受けた。重工業化を中心とした経済発展は独占資本の形成を促す一方で、労働者による労働運動を高揚させ、アメリカ労働総同盟や世界産業労働者同盟が結成された。政府もシャーマン反トラスト法を制定して独占の抑制をはかったが、効果は上がらなかった。黒人とインディオの差別問題も依然として国内に残っており、南北戦争後に奴隷制が廃止されたにもかかわらず、黒人はシェアクロッパー制の下で低賃金労働が続き、州法が悪用されて実質上の差別は続いた。インディオは西部開拓に伴い居留地に閉じ込められ、白人への同化を強制された。(399字)

**解説**

どの教科書でもそうなのだが、南北戦争に至る経緯はわりと丁寧に記載されている。しかし、南北戦争後の合衆国の国内のことになる、急に記載量が減ってくる。もちろんこれはアメリカ合衆国だけの話ではない。19世紀後半以降、世界史において各国史は高校世界史の中ではさほど高いウエイトを占めない。そのため、この問題も奇異なものに見えたかもしれない。しかし、世界史を学習するときに教科書だけに頼っているわけではないだろう。図表や用語集といったもの、各先生方から配られているプリントなどを使っているはずだ。世界史は何が出版されるか予想しづらいために、何か1冊だけを勉強すればそれで大丈夫というものではなく、様々な本に目を通しておくということが一番の近道になる、という逆説に満ちあふれている。この問題も図表などに目を通していた者がはるかに有利な問題である。

黒人問題やインディオ（インディアン）の問題については、入試においてはよく出てくるし、一橋大でも1993年度に黒人問題の歴史についての400字の論述が組まれたこともあった。今回の問題では、問題文に人種問題の複雑さについて指摘する文章が載せてあるので、指定語句がなくとも、黒人・インディオ・移民のことは書けるはずだ。但し、経済の発展と関連付けるというところは、黒人やインディオとは直接結びつかない。といっても、問われているのはこの時期のアメリカ合衆国の国内問題なのだから、気にする必要はない。問題の主要求と副次的要求を取り違えてしまうと、簡単な問題も難しく見えてしまう。

解答例には経済の発展のことを多めに書いておいたが、これらマイノリティーの問題を多めにしてもよい。経済の発展が多めになった理由は、労働運動のことで独占資本のことに触れるために、その分だけ文章の展開に字数を費やしたためである。このことを盛り込まないのであれば、マイノリティーの話を中心に書いていけばよい。指定語句がない問題の方が、用語を忘れていても取り返しがつく。これが一橋大入試のよいところである。指定語句をつなげるのに頭を使わせる大学もあるが、そちらの方がはるかに大変なのである。一橋大で指定語句が記載されている問題の方が難しいのは、用語の使い方が見当もつかないからである。何を書かなければならないのかを見抜く力は、何を自分が書きたいか、ということとつながっている。受験まで残された時間はあとわずかではあるが、今までの教材を見直しながら、書きたくなる＝表現したくなるくらいに世界史の学習を深めていってほしい。

**【配点の目安】**（配点 50点）

- ①南北戦争後のアメリカ合衆国では北部を中心に商工業が発展し、重工業化が進展した（10点）
- ②大陸横断鉄道の開通によって西部と東部の市場が連結され、経済成長を支えた（12点）
  - ◎大陸横断鉄道開通の意義として、合衆国の経済的・政治的統一について触れていけば可。
- ③工業化の進展を支えたのは、中国系移民（苦力）や南欧・東欧からの新移民であったが、差別問題が生まれた（9点）
- ④独占資本の形成を促した（4点）
- ⑤労働運動が高揚した（4点）
- ⑥黒人・インディオに対する差別も続いた（5点）
- ⑦解答を充実させるために、次のうち2つ以上の要素を押さえる。（3点×2＝6点）
  - ・19世紀末には工業生産力でイギリスを上回った
  - ・アメリカ労働総同盟（や世界産業労働者同盟）が結成された
  - ・政府はシャーマン反トラスト法を制定して独占の抑制をはかった（が、効果は上がらなかった）
  - ・奴隷制廃止によって、労働力としての移民が増加した
  - ・憲法修正第13条で奴隷制の全面廃止が規定された
  - ・黒人は、シェアクロッパー制の下で低賃金労働が続いた
  - ・州法が悪用されて（or 黒人取締法が制定されて）実質上の差別は続いた
  - ・インディオは、西部開拓に伴い居留地に閉じ込められた or 白人への同化を強制された









会員番号	
------	--

氏名	
----	--